

「15 市 町 の Merry な物語」 春日井市の万博出品作品

オブリジェの一部 児童らが制作

二十五日開幕の愛・地球博(愛知万博)に春日井市が出品するオブリジェの一部を制作するワークショップが六日、同市鳥居松町の文化フォーラム春日井であり、市内の小学二一六年の児童十六人が参加した。(藤沢 有哉)



粘土でカエルをつくる子どもたち。春日井市鳥居松町で

小野道風の逸話が題材

万博長久手会場の県館で四月十六日、春日井市を含む尾張東部地域の十五市町が、それぞれの自治体に古くから伝わる民話や逸話を題材にしたオブリジェを並べる「十五市町のMerry(メリ)な物語」を開催する。

春日井市が出すオブリジェのテーマは、市内で生まれたと伝えられる書聖・小野道風が何度も失敗してようやく柳の枝先に飛びついたカエルを見

来月16日

お目見え

て、努力の大切さを学んだという逸話。直径一尺の円形パネルに、道風や柳の木をかたどった色紙などを張って制作する。

この日は、イベントを企画した名古屋市中区出身のアートディレクター、水谷孝次さんがオブリジェについて説明。子どもたちはパネルに張り付ける体長約一五センチのカエルを粘土で作り、柳の葉の形をした色紙には「画家になりたい」などと将来の夢を筆で書いた。